

出来る時に、
出来る事を、
出来る人がヤル

さんさん 燦燦ニューズレター

発行 上智大学金祝燦燦会
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町 7-1
上智大学ソフィア会事務局気付

2025年総会と懇親会、 杉村美紀新学長による特別講演

今年の総会と懇親会は5月16日(金)にソフィアンズクラブで対面方式で開催します。皆様ふるってご参加ください。会員の皆様には懇親会の参加費として3000円をお願いします。なお、講演会および懇親会にご家族の方の参加も歓迎です。ご家族を同伴される場合の同伴者の参加費はお一人2000円となります。懇親会に先立ち、杉村新学長に30分ほどの講演をお願いします。楽しみにしてください。

総会はZoomでも配信予定です。URL は同封のお知らせをご覧ください。なお、総会、懇親会は会場の都合で申し込み順となります。事前申し込みをお願いします。

新学長に杉村先生が就任



写真提供上智大学

氏名: 杉村 美紀(すぎむら・みき)
学位: 博士(教育学) 東京大学 / 1998年12月
専門: 比較教育学、国際教育学、多文化教育論

4月に杉村美紀総合人間学科学部教育学科教授が上智大学で初の女性学長として就任されました。杉村学長は、2002年9月に上智大学に着任されて20数年、副学長として早下元学長、曄道前学長のもと学術交流、グローバル化推進を担当されました。任期は、2025年4月1日から2029年3月31日までの4年間です。

曄道前学長 - 燦燦会の顧問に就任

3月26日に学長として8年間を過ごされ、この度退任された曄道前学長との面談が叶いました。曄道前学長にはご在任中、金祝燦燦会の様々なイベントにご参加下さり、その都度、留学生に向けて温かい励ましのメッセージをいただきました。日頃学長と身近に接する機会のない留学生にとっては在学中の忘れがたい思い出となる出来事だったと思います。また、燦燦会の「10年のあゆみ」誌には、我々燦燦会会員が改めて奮い立つような励ましのメッセージをお寄せくださいました。

長年に渡ってご支援をいただいた曄道前学長に、退任に当たってお礼のご挨拶と、同時に燦燦会顧問への就任をお願いしましたところ、快く引き受けていただきました。

会員勧誘活動

1974年卒の金祝式典と祝賀会が2月22日に行われました。燦燦会では、新たな会員を獲得するべく、金祝卒業生への唯一のコンタクトの機会である祝賀会会場の勧誘活動を行いました。



勧誘活動の様子

今年は勧誘のための燦燦会の案内パンフレットを一新し、他の資料と共に式典参加者全員へ配布したり、当日用に勧誘チラシも用意し、それにキャンディーを添付して参加者へ手渡しできるよう準備しました。チラシには燦燦会の紹介ビデオが視聴できるQRコードも載せました。

当日は、会員9名がそろいの法被を着て、チラシを片手に祝賀会会場の2号館5階のエレベーターホールで待ち構え、参加者一人ひとりに声を掛けながらチラシを配りました。

祝賀会には360名の74年卒の卒業生が参加し、学生食堂が喜びの顔で溢れました。グリークラブOBの校歌斉唱で始まった祝賀会では、実行委員長の八木達郎さん(74経経)が冒頭の挨拶の中で燦燦会の紹介をして下さり、また来賓として出席されたサリ上智学院理事長が挨拶の中で、「人生100年時代を見据えて、金祝後の母校との繋がりを金祝燦燦会で保ってほしい」と述べられ、燦燦会へ入会への後押しをして下さいました。燦燦会にとって、とても有難いことでした。

お陰で、当日8人の方がその場で入会手続きをされ、会員となりました。その後も、パンフレットを読んだ方々から入会申し込みが続き、3月末日現在の新入会員は12名となっています。これからサリ理事長による「PR」の効果が期待されます。最新の登録会員数は526名で、帰天、退会、連絡不可能が110名あり、実質会員数は416名となります。

燦燦会に入会してみて

司会： 畔柳文雄（会長、68理物）
 参加者： 渡辺多嘉子（名簿管理担当チーフ、69外露）
 （敬称略）柴田ひさ（会員募集担当チーフ、69外露）
 清水進（イベント担当サブ、71経営）
 中川恭明（会員募集担当サブ、73外仏）

燦燦会は「留学生のために、留学生と共に」を実践し、母校へ貢献することを目指して活動しています。本日は、入会されて早速役員として活躍されている方々にお集まりいただき、燦燦会についての感想やこれから期待すること等について語っていただきました。

◆ 入会して刺激を受けたこと



畔柳会長

司会 燦燦会の活動は人海戦術に代表される懐かしいとも言えるアナログ方式に加え、AIをも含むデジタル技術を駆使している「老人」の集まりですが、実際に燦燦会の運営にたずさわってみて皆さんのご感想はいかがですか。



柴田 在学中も卒業後も決して出会う事の無かった他学部の先輩、同輩、後輩との出会いは母校を再認識する良い機会となりました。四ツ谷を巣立って半世紀を様々に過ごしたソフィアン達との遺り取りは新鮮で色々な刺激に溢れ興味が尽きません。対面は勿論、Zoomでも定期的に顔を合わせることで親近感が湧き、遠い親戚より近所の隣人の感覚になります。留学生支援という一致点があるので、様々な関わり方夫々が常に自分を開眼させてくれるのが楽しいです。



中川 自由に発言できる環境です。寛容の精神に溢れているようです。

渡辺 コンサートの帰りに同級生のSさんのお誘いを受け会員に。途中ブランクはあるものの、今でも四ツ谷までのJR定期を持ち、教会と市民運動（お茶の水、水道橋あたり）に出歩いていることから、発送はお手のモノと、会報発送のお手伝いに伺いました。そもそも金祝を迎えた方々ばかりで、活動されている運営陣はお年寄りばかり！当然です。私もお仲間です。明日をも知れぬ面々（我ら）が、「できることをできる時に」が嬉しい。会長さんは物理科、会計さんも物理卒、皆さん過去の肩書も経歴も関係なく？いえいえ、しがらみのない燦燦会こそ働き場とばかりにお役目をこなされるお姿は現役そのものでしょう！印刷物の発送はといえば、OAラベルの打ち出しと送りきや、角2封筒に直接住所氏名を打ち出す…寄贈された機器の手ほどきを60年卒の大先輩からいただき、なんとかこなしております。

清水 2022年11月に金祝燦燦会への入会手続を済ませ、直ぐに「上智大学留学生夢支援懸賞論文奨学金」の第一回授与式と発表が行われました。大変興味深く、お手伝いでもできないかと会場に足を運んだ覚えがあります。優勝論文の発表を聴いて、夢の大きさと実現への努力に感動いたしました。後日、燦燦会が開催した受賞者による講演会で、本人から6人兄弟の長兄で弟たちの面倒も見ている

との説明があり、彼の努力には頭が下がる思いがしました。

司会 「留学生のために、留学生と共に」を活動目的として「発信する燦燦会」を目指しています。まだまだ改善の余地はありますが、勉学奨励金の授与、俳句コンテスト、留学生による月例講演会、スピーチコンテスト、さらに「留学生夢支援懸賞論文奨学金」の大学との共同企画のように行事そのものは定着しています。その準備や発信にはなるべく今風のデジタル技術を使うようにしていますが、我々にとっては大きなチャレンジです。

◆ 留学生からこんなことを学びました

司会 燦燦会の様々なイベントを通じて直接、または間接的に留学生と接する機会がありますが、刺激を受けたとか、役に立ったことがあればお願いします。

柴田 国名には馴染みがあっても、訪ねたことの無い場所は多く、語られる事柄が常に興味深い。専門分野は色々異なっても日本に生活して何に関心が向くのか、今の若者の一面を見られて嬉しい。日本語でも英語でも、その言語と母語との違いから見えてくる言語習得、殊に音に関心があるので、講演そのものが内容を含めてとても楽しみ。上智の留学生とは燦燦会入会以前には接点が無かったので、これまでの自分の経験を思い出しつつ、留学生の生の言葉がきけるのは貴重。



清水 勉学奨励金授与式後に留学生と話をする機会があります。1人2人と会話して話が盛り上がる時に時間切れになることがあり、相手の留学生は残念な思いをしているでしょう。

個人的には、次回に対面またはZoomで会え講演の内容が分かっている場合は、質問することを事前に準備することにしました。



渡辺 懐かしいキャンパスもだいぶ変わりましたが、一号館とSJハウスは思い出のよすがです。授業にジーンズは是か非か、なんてことも今は昔。俳句コンテスト、スピーチコンテスト、浴衣の着方教室でみる留学生の皆さんはとても賢くスマートで、比較的恵まれている方が多いように感じます。島国日本に不可欠な交流の種、世界各地に散って根を張る希望を感じます。祖父母世代として、市民レベルの交流に一役買っていることを実感します。

司会 留学生と接するたびに彼等、彼女等の言語能力、探求心には心底驚かされます。本当に優秀で、先輩として大きな誇りです。燦燦会では勉学奨励金の授与式や、月例の講演会等でそのような留学生と直接対話する機会を提供しています。夢支援懸賞論文の応募内容から、上智卒業後は国を背負って立つような事業を夢見ている学生が多く、政府機関との接触や資金導入等について具体的な計画を提示した学生もいました。

◆ 留学生に対してこんなことができれば

司会 留学生に対して新たに提供したいイベントやサービスがあればお願いします。

渡辺 将来的には、燦燦会にもっとも余裕ができれば、特にアジアの恵まれない若者の受け入れを手助けできるような奨学金等の支援ができればいいな、と思っています。

例えばイズス会の現地学校との連携など、燦燦会を立ち上げ、ここまで育ててこられた先輩の皆さんに敬意を表し、若い燦燦会の枝が伸び、葉が茂るよう、喜んで枯れ落ち葉となりましょう。

上智大学

約 11 人にひとりが外国籍学生

大学学生数 12,352 名
学部学生数 1,577 名

全学生の約 9%にあたる 1,209 名が外国籍学生。異文化コミュニケーションが日常的に体験できるグローバルキャンパスには、世界中のさまざまな国から学生が集まっています。授業以外にも学びのチャンスがあふれています。

2024 年 5 月 1 日現在
上智大学ホームページより

清水 忙しい留学生に時間の余裕があれば、①じっくり話ができる茶話会の設定、さらに時間があれば、②新宿御苑、動植物園などの観賞会設定。映画鑑賞、美術館鑑賞もあり得る。

柴田 彼等が、我々、恐らく祖父母世代の日本人に聞きたいことがあれば、

それに答えたい。日常生活では中々、接する機会の少ない年代層と思われるので。忙しい彼等の時間を取り上げてしまうことは憚られるが、彼等にアンケートで、やりたいことを尋ね、出来ることがあればやりたい。ソフィアンズクラブで、少人数でも、カジュアルに短い時間を決めて集まって、お喋りするの面白いだろう。

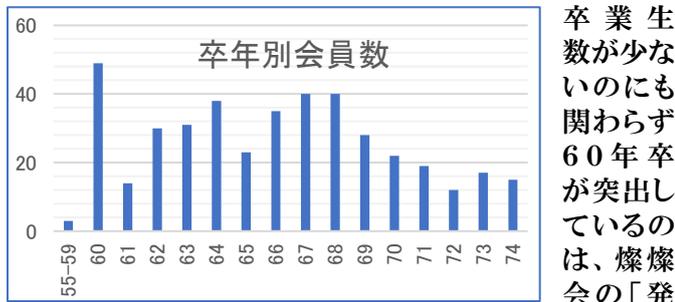
中川 スピーチコンテストや俳句コンテストの賞金を増額すると一層励みになるかもしれません。また、審査基準(項目ごとの%表示)を公表することによって、応募者増が期待でき、応募者自身の自己評価につながる、というのが公正な判断が行われている証左となります。

司会 忙しい留学生に対応するため、勉学奨励金の授与式や、俳句コンテストの表彰式は昼休み時間を利用して開催しています。

◆ 燦燦会の会員を増やすには

司会 燦燦会の運営に必要な資金は全面的に入会金に依存しています。そのために、会員を増やすことが喫緊の課題です。皆さんから後輩に入会してもらおうためのメッセージを一言お願いします。

現在の登録会員524名のうち、いわゆるアクティブ会員は416名です。その卒年別の分布は下記のようになります。



卒業生数が少ないのにも関わらず60年卒が突出しているのは、燦燦会の「発起人」として現在もお元気に燦燦会を支えていただいている証左です。コロナ禍もありましたが、14年経っても60年卒を超えることはできず、毎年入会者が減る傾向にあるのは残念です。

柴田 年々、知り合いが減り、声かけが難しくなっています。あらゆる機会を逃さず、心掛けていますが、限界を感じます。友への便りには必ず一言添える様にしても結果には程遠いままで。現会員にも、「時折は顔を見せて欲しい」と呼びかけを続け、諦めない事ですね。

清水 実際に勧誘活動をしてみて大変難しい課題だとは思いますが、地道な活動が必要です。①金祝祝賀会にて、皆でペラを渡しながらかん誘、②同期や同期以外の卒業生とでも集まる機会があれば声をかける、③一口千円募金は使いようでは有効ではないか、④後輩への声かけとして3人一緒にもしくは5人の括りも考えられる。要は、金祝後のソフィアンが集まる場で声掛けをすることができれば可能性が増すと思います。

◆ 燦燦会の発展を目指して

司会 これから燦燦会が発展するには何をすべきか、そして、どのような燦燦会を期待しますか。

柴田 会のモットーを実行しつつ、私自身は常に、これが最後かもと思いつつ、いつも出来るだけの参加を心掛けています。

中川 Web 会議を基本とすることによって、会議諸費用を抑えることができるのではないのでしょうか。

清水 改めて燦燦会で発行した①「上智大学金祝燦燦会五年のあゆみ」、②「10年のあゆみ」(2012~2022)2冊といろいろなペラに目を通しました。その結果、③これからの燦燦会の発展を目指して、先ず会のモットーである「留学生のために、留学生と共に」に注力し、留学生の動向、価値観の変化などレビューして方向感、何をすべきかなどを検討することが必要かと思っています。

司会 燦燦会は多数決ではなく、参加者が自由に意見を出し合いそれを議論するいわゆる合議制で運営されています。それだけに、定例の会議には対面、リモートに関わらず積極的に参加して意見を述べていただくことが重要となります。それが燦燦会の活性化に繋がり、ひいては母校への恩返しになると思います。本日はありがとうございました。

(この座談会は参加者に質問状を送り、その回答を座談会風に編集したものです。)

第3回夢支援懸賞論文奨学金授賞式

上智大学の留学生が卒業後、上智で学んだ知見をそれぞれの母国あるいは日本でどのように活かして実践していくかの「夢」を論文形式で語ってもらう第3回「留学生夢支援懸賞論文奨学金」の授与式と論文発表が、昨年11月26日に2号館17階の特別会議室で開催されました。



ボルドウイアンさんと榎柳会長

優勝はモンゴル出身の Bold-Uyan (ボルドウイアン)さんで、SOPHIA 未来募金の留学生夢支援懸賞論文奨学金から奨学金20万円が贈られました。

一次審査をパスし、惜しくも受賞を逃した3名には金祝燦燦会から努力賞として2万円が贈られました。授与式の様子とボルドウイアンさんの「夢」を語る論文発表、および努力賞3名の言葉は左のQRコードからご覧いただけます(約23分)。



シリーズ 燦燦会の役員に聞く⑤

会員募集
中川恭明(73外仏)



2024年2月24日、50年振りの四ッ谷。エスカレーターで麴町口を出るや否や、小学生の頃に一気に引き戻された。左手には、学校帰りに編み上げの革底で何度もよじ登り切ろうとした江戸城の石組が雙葉の土手の一角をなしている。段ボールを敷き飽きもせず滑っては這い上がり遊んだ草の斜面。目の前をゆっくりと通り過ぎる黄色の電車。市ヶ谷見附の坂が見える外濠の端の浮石の陰に潜むアメリカザリガニたちが渾身の力で瞬時にさらに泥の中に逃れようとして立てた水飛沫と灰色を増し広がる水面。

同伴者の促す声でようやく信号を渡った。青信号が短く感じられたのは、おそらく道路拡張のせいであろう。登校時にはすぐ右手の石段を登り正門前で下りていたが、以前と変わらずに木の根っこが所々にはびこり、土むき出しの状態から遊歩道へと変貌を遂げていると想像しつつも、やはり連れの装いを思い、またの機会に譲ることにした。上智の土手上ってれば、清澄な空の下迎賓館赤坂離宮、赤坂御用地の一面の緑が眼前に広がっていたであろう。

式典は、荘厳というよりは始終和やかな雰囲気包まれていた。50年という月日の隔たりよりも同じくらいの年齢で同じ時に同じ場所で同じように過ごした、その一体感が勝ったかのようであった。祝賀会会場入り口前で燦燦会のハッピーに出迎えられる。祝賀会には、フランス語学科男女各5名の参加。懐かしい顔ばかりと言いたいところではあるが、面影を懸命にさらに無理に探し求めるのも極めて困難だったのはおそらくお互い様であろう。男性の二人とは、確か80年代半ばあたりにパリで出会っている。大手商社の駐在員とは地下鉄の向かい合わせの席で遭遇した。大手旅行代理店の支社長とはソフィア会のクリスマスの集いであったような気がする。他の二人はというと、大手商社マンと三大新聞の記者。往年の話に花が咲くと思いきや、意外なことに授業などの思い出話は皆無同然。熱血、多感であったはずの青春時代の自分を再演してみせられないのは、時の流れの悪戯であったのかもしれない。

授業は、私にとって、厳しくも楽しいものであった。特にポール・リーチ神父とクロード・ロベルジュ神父。リーチ先生はAlbert Camusの「l'Etranger」(「異邦人」)の原書購読では登場人物になりきり、モッキンポット氏の独壇場であった。ロベルジュ先生は、発音と身体動作の関連に基づいた発

音矯正の第一人者。オーバーアクション気味の、体操教室さながらの授業。そして石澤良昭先生の「フランス文化交流史」。フランスを含めた諸国家の対外文化政策への興味・関心を爾後ではあるが持つことができた。

生まれ育った四ッ谷とアーチ橋で結ばれている上智大学での至福の思い出こそが、ささやかな貢献へと向かう一歩を踏み出させた。それが燦燦会だと信じて止まない。

俳句コンテスト

留学生による第15回俳句コンテスト2024秋/冬編の表彰式がZoomによるオンラインで1月17日(金)に開催されました。



11の国と地域の留学生17名から全49句の応募があり、サリ理事長を始め杉本

学生局長及び永野学生センター長にご参加いただき、当日のご出席が叶わなかった永野学生センター長からは予めいただいた原稿を金祝燦燦会として初めての試みとしてAIによる音声合成によって紹介させて戴きました。サリ理事長からは「なかなか俳句コンテストは定着しており、やり方も上手になっており、俳句もいいものができているように思いました。」とのコメントをいただきました。

英語俳句最優秀賞:

Footsteps in the snow, Vanishing as wind sweeps past, Time leaves no traces

(チェン・ミンチェンさん、理工学研究科、中国)

和訳: 谷地元瑛子氏

雪風時 やがて消えゆく わが足跡

日本語俳句最優秀賞:

見上げれば 君との空に 紅葉舞う

(グチェレズ・ルデニヤさん、FLA 国際教養学部、フィリピン)

募金状況

2024年度(2024.3.1~2025.2.28)の一口千円募金の集計結果は、150件で¥1,142,000でした。今回も目標である100万円を達成することができました。皆様のご協力に感謝します。

編集後記 曄道先生が8年間務められた学長を退任され、後任に杉村先生が就任されました。上智では初の女性学長です。創立10周年時に曄道先生からいただいた燦燦会の留学生支援をサポートしていただく力強いお言葉は、我々の活動の原動力となっています。退任後、先生には我々にとってより身近な存在として燦燦会の顧問に就任いただきます。頼もしい限りです。杉村新学長には、総会で特別講演をしていただきます。昨年のサリ理事長に続いての総会のメインイベントとなります。理事長には今年の74年卒の祝賀会のご挨拶で、金祝後に母校との繋がりの場として燦燦会の存在を紹介していただきました。会の認知度が上がり、入会者が増えることが期待されます。最近入会された4名の役員に入会後の感想や、これから期待することについて聞きました。大いに参考になります。(MI)